

プロスポーツ

能登半島支援 万博協賛
日本選手権競輪 号外版

令和6年 前夜祭 4/29 4/30 火曜日 5/1 水曜日 2 木曜日 3 祝金曜日 4 祝土曜日 5 祝日曜日

イチ押し!

記者の

小山 記者



晝田宗一郎はウイナーズカップがビッグレース初出場。⑧⑨①着で初日特選からの3日間はラインの先頭で積極的な走りをして、最終日は山根将太の番手回りから1着をつかみ、見せ場たっぷりの4日間だった。その後の小倉、久留米、別府でも力強い走りを披露。久留米の準決では単騎だったが、上がり10秒7の快速まくりで強敵を倒している。今回がG1初出場になるが、先頭で走った時の積極性や、狙い澄ました一発などでアピールする機会がありそう。

青野将大は前回の太宮で①⑦着。差しの決まり手が2回ついた。初日特選と準決は前に前にと攻めたレースで、別線の動きに巧く反応。ゴール前までしぶとく踏み続けた結果だ。以前から強地脚を生かしたレースには定評があったが、今後は戦法の幅が広がっていきそう。今年1月の伊東は新田祐大らの強豪を相手に優勝しているようにパワーは通用しているし、3月のウイナーズカップでも2回の連対をするなど、安定感も魅力のひとつだ。

竹内 記者



15年のダービーがビッグ初めてのファイナル。翌16年にはゴールデンレーサー賞を制すなど、原田研太郎にとってダービーとの相性抜群だ。

「去年から気分転換もあってトレーニング方法を変えた。先輩方にまかせてもらってやって練習量も増えた。若い時はやればやるだけ身になっていただけ、年齢を重ねて考えながらやっている」

1月の小倉から使い始めた自転車もマッチしている、気持ちの方も前向きになっている。地力だけで言えばビッグをとうに獲っているいい力があり、あとは流れだろう。

昨年のダービーで2走目に落車の憂き目。G1での勝ち星も一昨年の寛仁親王牌から遠ざかっている金子幸央だが、近況の動きから見直したい。1月の宇都宮で復調へのキツカケをつかむと、続く平を連勝で優出。3月の岐阜では完全Vと波に乗っている。「ここで弾みをつけて、頑張りたい」。直前の西武園記念で9車立てモードに入り、ダービーを迎えられるのも好材料だ。

細川 記者



川崎記念決勝でSS班3名をまとめて封じ自身3度目のG3制覇を達成した嘉永泰斗。松山記念、取手のウイナーズカップではリズムを崩していたが、大事なG1を前に軌道修正に成功した。今年2月の久留米から投入した新フレームとのマッチングも高まっており「シューズのサンを変えたりして最近で一番、体とマッチしている」と確かな手応えをつかんでいた。「戦い方をしっかり考えて」とライバルに隙を見せることなく立ち回り、決勝進出を目指す。

取手のウイナーズカップでビッグ初優出を決めた窓場千加頼。準決ではアクシデントもあったが古性優作を振り切り、決勝は北井佑季と真っ向勝負をして脇本雄太の優勝に貢献した。同期の古性が「千加頼はメタルの波がなくなればSSになってもおかしくない」と素質の高さを認めるほど。大舞台での経験が自信へと変わり、勢いはさらに加速する。今回がダービー初出場となるが、舞台は今年1月の記念で準Vと相性良いバンクで、初日から存在感を放つ。

権田 記者



あのころの勢いを取り戻したい。近況のビッグ戦線では存在感を失いつつある吉田有希は、3月の地元、ウイナーズカップを⑧⑨③⑤着。一度も最終バックを取ることもなく終わったが、続く松阪では3日間バックを奪取して6②③着。初日予選敗退と成績は振るわなかったが、「一時期に比べたら構えなくなった。気持ちの方が吹っ切れた」とリセット。チャレンジャー精神をバックボーンにした思い切りの良さこそが、吉田にとっては武器。大舞台での久々の大暴れに期待したい。

竹内智彦は、前々回の立川で昨年9月以来の優勝を遂げて、ようやく軌道に乗ってきた。「腰のヘルニアで全然ダメだった時もあったけど、その時に比べたら今は全然いいですね。(西武園も)調子はいいです」。続く直近の西武園記念でも好感触を得ていて、強気な竹内が戻ってきた。7車立ての立川でV獲りも、本来は9車でこそその選手。穴党にとっては頼みの綱でもあり、人気薄での突っ込みにかけてみたい。



車券の購入は20歳になってから。競輪は適度に楽しみましょう。競輪とオートレースの売上の一部は、機械工業の振興や社会福祉等に役立てられています。